地域からも集いの報告

各地域で、分会で、班で
歌に踊りに花咲く集い

この日は、各地域でもつどいの花が咲いた。組合員や家族はもちろんのこと、千二百名の仲間（三池闘争の犠牲者）や退職した仲間も遠くの地から駆けつけ、盃を汲み交わしては健闘をたたえ合い、三池の火をいつまでもかかげながら闘うことを誓い合った。

歌・踊・川尻校区地域分会（池畑重富分会長）の新港三川ブロックでも、六十四人（組合員と主婦四十四人。かけつけた人二十人）が集い、記念集会の花が咲いた。（遺族の広沢睦子さん＝修功さん未亡人＝も、福岡市博多区西原町四丁目一八―三から参加）

集会はここでも炭掘る仲間の合唱ではじまり、参加していた谷端一信元三川支部長の「三池闘争」についての話を聞いたあと、一転焼酎で盃を重ね、今後の決意を語り合った。

歌と踊りがその後につづき、一人のおばあちゃんの「東京が日本のまんなかで……」の、あのおどけた歌に大喝采。「俺が」「俺が」で希望者続出。三池の労働者の天性の楽天性が開花した。

この夜、とくに参加の老人には心づくしの記念品が贈られたが、このため同ブロックでは廃品回収などもやったが、「やれば、なかった金もできた。やってよかった」と語り合っている。

×　×

写真は、新港三川ブロックのその夜の集いのにぎわい。

よしッ家族ぐるみだ 明るい明日を
天道校区地域分会から

〈みんな仲間だ炭掘る仲間。つらい時には手を取りあおう――スクラムを組んでの合唱。パーツとライトが照りつける。テレビカメラが近づいてくる。チョッピリ緊張する。

RKB毎日放送局の取材。地域最年長者の山浦さんの音頭で、「乾盃！」。

つい先程まで大牟田市民会館で開かれていた、組合主催の〝三池闘争二十周年記念集会〟の余韻も残り、思い思いの話が飛び交う。

「宮川元組合長が健在だったらどんな挨拶だったろうかのオ」

「三池闘争カンパを一発できめた太田ラッパは、やっぱり大型ラッパじゃったわい」

「だいたいな、三池闘争を、勝ったの、負けたのということがおかしかたい。三池闘争以上に闘った組合の幹部がいうとならわかるばってん、あんときは久保田氏がいうたつがほんなこつ。あっせん案をけって闘いたかった。今でも心残りじゃった」、と……。

話は合唱詩劇のことへ――

「詩劇で、荒牧さんのお医者さんは、役にピタリじゃった。一番よかったバイ」

「練習のときには出番のなかった人が舞台に出たり、出番になっているとに出てこんじゃったり。まごまごしとったら、本番のときはピシャリきまったな。演出家もおうごつじゃったろう」

×

今年五月に組合の地域分会を、十月に三池主婦会の組織を、それぞれ校区別組織に統合して初めての合同行事。果たして何人の参加者があるだろうか。ましてやこの日は、期末手当の支給日ときている。

心配だったが、しかし退職者を含めて四十名近い参加をみた。

若かりし頃の、見合い結婚、恋愛結婚などの思い出が紹介されていく。「二十年前の三池闘争のときには、家内のお腹の中には子供がいました。まだまだ若かったでーす」。あー、あの人とあの人が夫婦だったのか……。

特筆すべきは、この地域集会に退職者の参加を見たことだ。ありがたい。

瀬口さん、河口さん、吉武さんなどなど。とくに河口精喜さんは、遠く熊本市から参加いただいた。「熊本にも三池のOB会の組織があり、六十名の会員ががんばっています」、との心強い挨拶。

河口さんは、現役のときからコンピューターのような頭の持ち主だったが、やっぱり出てきました、「私は定年退職後今日現在で、十一年と何カ月何日になります」。先輩の頭はさえていた。胸を借りられる先輩ではある。

×

集会の場をなお、TVカメラのライトが、動きまわる。

宴会なかばで、RKBさんからまた注文が。「もう一度労働歌をうたってもらえませんか」。

よしッ。全員スクラム組んでまた合唱だ。

不思議やリズムもピッタリ。調子がよいったらありゃしない。

「すみません、もう一回……」とテレビ側。何回うたわせるつもりだろう。

屋外は、もうすっかり暗くなっている。それでもTVカメラは、窓の外側からまだわれわれを撮影している。合唱を終えるわけにはいかず、〈家族ぐるみのあと押しが、明るい明日を呼んでいる……

（弥永善治・記）

元気でがんばって またこの集まりを
野添地域分会から

三池闘争から二十年。組合での記念行事にひきつづき、主婦会ぐるみで地域の集会を開くことにして案内したものの、果たしてどれだけの人が参加してくれるか不安でした。ところが、大牟田市民会館での興奮がそのまま、地域でも再現。

Aさん　指名解雇されて大牟田を離れ、以後名古屋―福岡と渡って過ごしてきたが、三池闘争のことは忘れなかった。それでも野添にきたら、闘争本部がわからなかった。やっぱり、二十年の歳月は長かった。

Bさん　組織分裂後の闘いのこと、菊川一派の動き、灯をともす会の暴力団、彼らの黒ヤッケ姿、職制の第二組合への勧誘など野添では次つぎに派手なことが起き、敵味方かたずをのんだ思い出ばかり。

Cさん　案内を受けてうれしかった。解雇を拒否して闘った三池闘争当時を思い出し、孫をつれて記念集会にも参加したが…。

Dさん　社宅を出て定年になったから、外来分会からも案内を受けたが、やっぱり野添が先だとやってきた。分裂前夜のこと、あの菊川元新労組組合長から直接説得を受けたこともあるが……。

Eさん（女の人）　闘争中は主婦会の役員として、先頭に立ってがんばってきたが、お父さんも定年になり、今はお父さんの後からひっぱられるばかり。

Eさんのご主人　闘争中は家内にひきまわされていたが、今は、いつの間にか地域の相談相手となり、はじめて革新議員をつくり出し、三池村づくりをやっている。

Fさん　闘いなかばに、党の要請で職場・地域を離れ、常任活動家としてがんばっているが、三池闘争は私を育て、変え、今日の基礎をつくってくれた。やっぱり野添は私の故郷。

もてなしは間に合わせの手料理で。それでも酒がまわるにつれ、自慢の歌、とっておきの踊りなど飛び出し、「三池労組でがんばってよかった。どこにいても、胸をはって歩ける。次には、いつ、どんな集会となるかわからんが、それまでみんな元気でがんばろう」ということを確認し合ったことでした。

（藤田幸次郎・記）

×　×

人生を誇り高く！
笹原地域分会笹原班から

三池闘争二十周年記念集会が予定よりおくれて終了したので、その後に開く地域集会の準備に主婦の皆さんは大慌てだった。在籍組合員は二名だが、OBが五名も参加してくれた。それも同伴なので一名欠の十三名。久し振りに一堂に会し、開口一番「たまにはこんな集まりばしようや」と、この二十年間最も共通した思いを持ち続けている者同志の、集いに対する願望が口をついて出た。

最高齢者の音頭で乾杯。まさに玉杯に甘露の甘味さ。同じ酒がこんなにも味が違うものか、としみじみ感じる。頭髪の老けにもかかわらずのどの方はまだまだ若い、とにぎあう歌に笑いが加わる。

その間にも語られる想いは？

「親たちの生きざまを、子供たちはよく見ている。一番よく知っているばい」

定年退職後再就職したという人はいった――「上役のいうことには、いや応なくハイハイだ。組合の姿勢も問題。ある日、会社の幹部が余りに横柄だったので、ついコブシをふり上げようとしたが、そばの人が抱き止めてくれ事なきを得た。元三池労組員としてこそできる発噴ですよ」と。

取材にやってきた読売新聞の記者が聞いたという――「定年退職されたあなたは、三池闘争の敗北感はどう考えますか」。

それに対して、「敗北感なんてないよ。そらア、千二百名の仲間を手離したことは無念残念。悲しいことだったよ。でも敗けたとは思わんよ。三池闘争は今でも俺たちの誇りだよ。敗北感なんて、そんなデッチ上げは今後はやめてくれ、といってやった」という人があった。

「闘争後、俺たちの犠牲は大きかった。でも、闘いの意義はもっと大きかった」

皆さん元三池労組員として現役として、物質的にはめぐまれなくても精神的に豊かに、誇り高く、人生を生きておられるのだ。

歌と談笑の続くなか夜もふけ、来春実施する旅行の実行委員会と期日をきめ、散会。

（早田正次・記）

倒産合理化攻撃と闘う
花崎木材の仲間たち
COオルグ活動の一つの報告

島根県下に企業の基礎を置く花崎木材工業は、合板第二次加工メーカーとして県下四カ所に事業所を持ち、広島、大阪、東京、北九州などに営業所を設置し、幅広い営業で利潤を得てきた企業で、労働者数は関連産業を含めると約四百名。

労働者の実態は、ここでも労働災害、低賃金、無権利状態の中で苦しめられてきたといわれています。

このような状況の中の昭和五十二年、権利にめざめた十一名の労働者が中心になり、一般労花崎関連企業分会を結成し、賃金闘争や権利闘争を職場から組織し、その闘いの中から「労働者にとって、団結以外に権利を守ることはできない」、ということを知り、組織は八十名に成長してきたのです。

組合活動家をまず解雇

会社は、労働者が強くなったらもうけが少くなるので当然不当労働行為を行ない、組織の切り崩しを強行、七八春闘で、中心的な活動家である村上書記長を一方的に解雇し、さらには職制を利用しての第二組合結成と、徹底的な差別攻撃と切り崩しを行ない、昭和五十五年六月にはついに、花崎木材倒産という減量合理化攻撃となったのであります。

花崎分会三十名の労働者は、「倒産」という減量合理化のなか地区労、県評、社会党等の支援と連帯につつまれながら、「人間らしく生きつづけ、働きつづけるために」、主婦の人たちの炊き出しなど、まさに家族ぐるみの闘いを行なっています。

三池の闘いも俺たちの闘い、と

こうした苦しい実態のなかで、「三池の闘いも俺たちの闘いである」という階級的思想に立ち、COO闘争に対してさえ相極的取り組みを行なっております。

私たちはこのような花崎分会の同志に対し、支援へのお礼を申し上げるとともに、三池からの支援と協力をお願いし、COオルグ活動の報告をおわります。

励ましは次へお願いします。

「島根県鹿足郡六日市町有飯　花崎木材(株)内　六日市地区労一般労花崎分会　白石芳夫分会長殿」

×

右はCOオルグ＝宮崎勝さんと壇和麿さん（ともに職場五分会・四山）の報告。